

令和4年度第3回狭山市社会福祉審議会会議録

開催日時 令和5年2月3日(金)  
午後1時27分から午後2時40分まで

開催場所 市役所 603・604会議室

出席者 12名  
朝賀委員、井村委員、大野委員、小野委員、中澤委員、中野委員  
成瀬委員、日比委員、細井委員、堀委員、宮本委員、矢吹委員

欠席者 諏訪委員、高橋委員、寶積委員

事務局 10名  
鷹野福祉部長、栗原健康推進部長、吉崎福祉部次長(福祉政策課長兼務)、  
五十嵐健康推進部次長(新型コロナウイルス感染症対策室担当課長兼  
務)、湯浅高齢者支援課長、田口介護保険課長、川島介護保険課介護事業  
担当主幹、松居介護保険課介護事業担当主査、阿部福祉政策課総務・政  
策担当主幹、堀越福祉政策課総務・政策担当主査

傍聴者 なし

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 第9期狭山市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について(資料1)

介護保険課長から説明

〈質疑応答〉

委員 資料1-2の6ページにあるステップ1アンケート調査の実施に  
「3,000人にアンケートを配付」とあるが、回収率の見込みはどのくら  
いか。

所管課長 最新の状況で2,292件を回収した。前回実施したアンケートでは  
2,220件を回収し、74%の回収率であった。

委員 介護人材の確保について、どのような施策を考えているか。埼玉県で  
は光熱費等高騰対策支援事業補助金を交付しており、西部地区の市町村  
でも独自の補助金がある。狭山市ではこのような補助金がないことか  
ら、介護人材のドーナツ化現象が起きてしまうのではないか。

所管課長 光熱費等高騰については、当市でも昨年9月に地方創生交付金を使う  
介護施設のガソリン代などの補助を提案したが、埼玉県で同様の補助を  
していることから、採用とはならなかった。地方創生交付金の仕組みは  
まだ継続していくようなので、令和5年度も引き続き提案していく。

埼玉県の介護人材確保総合推進事業及び介護職員就業定着支援事業を  
広く周知するために、公式ホームページや広報紙に掲載してPRをして

く。この事業の受託事業者による説明会・相談会が6月と11月に開催され、当課職員も参加した。今後もこの取り組みを一緒に進めていく。

会 長  
所管課長

実態調査とニーズ調査は第8期の計画時と比べて変更点があるか。  
会議資料1-5の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査票は11ページの間12情報通信機器の利用についてと問13運転免許証の返納についてを追加した。12ページの間14新型コロナウイルス感染症の感染拡大については、通所系サービスの利用が減ったり、要支援者が増えたりしている状況で、影響を確認するために選択肢も工夫した。

会議資料1-3の在宅介護実態調査は、ヤングケアラーの実態を把握するために、1ページの間6を追加した。結果を分析して施策を検討していきたい。

会 長

ヤングケアラーについての設問を追加したことはありがたい。加えて、アンケートの結果をこども政策とも連携してもらいたい。

本日の資料で示されている計画策定の会議スケジュールは基本的な開催回数であって、必要に応じて回数が増えることがあるので、委員の方もお承知おきいただきたい。

(2) 民生委員・児童委員一斉改選の状況について

(資料2)

福祉政策課長から説明

〈質疑応答〉

委 員

民生委員制度に無理が来ていると思われるが、改善の方法が見つからない状況ではないか。しかし、全国的には2割近くが欠員であり、手をこまねいてみている状況でもない。欠員が多いことから、現在、自治会長が民生委員を兼ねていることもある。欠員を減らす方法を考えていかなければいけないのではないか。

所管課長

民生委員の負担軽減については依頼事項の整理をしたり、一斉改選では退任される民生委員からも候補者の情報をいただいたりしてご協力いただいた。また、民生委員推薦会では自治会からの推薦書類の負担軽減について協議している。今後も様々な視点から民生委員制度の改善を行っていきたい。

委 員

また3年後に一斉改選があり、時間的に余裕がないので、真剣に取り組んでいただきたい。

委 員

民生委員の成り手がいないという問題は数年前から出ている。また、後任者が出てこないで退任できず、任期が長くなってしまふ委員がいる。このことについて、所管課はどう考えているか。

所管課長

民生委員は最長何年までという決まりはない。また、1期、2期で退任していただいてもいいというものでもない。後任者がいなくて任期が長くなってしまふのはよくないが、すぐに解決策が見つからないので、先程申し上げた方法で欠員を解消し対応していきたい。

委 員

退任したい民生委員が慰留されて、10年15年続けている現状があるので、

後任者をうまく探せる地域づくりが必要だと思う。

所管課長 検討していきたい。

委員 1期で退任する民生委員もいる。地区の民生委員には民生委員活動は無理をしないで、できる範囲でいいと言っている。また、わからないことがあれば地区民児協の会議で相談し、わからないままにしないようにと言っている。民生委員になれば皆さん何期か続けてくれる人が多いが、民生委員を見つけるまでが大変である。

委員 民生委員が児童委員を兼ねるのも大変である。

会長 1期で退任する民生委員は、民生委員の活動量が多く、また訪問活動も心理的に大変であると感じているのではないか。2期目以降も続けてくれる委員の地区民児協はサポートがしっかりしている。そうでない地区は1期で退任する民生委員が多いのではないか。

行政にお願いしたいのは、1期目で退任する委員がどれくらいいるのか、退任する委員は、何期目の委員が多いのかを分析してもらいたい。

長く民生委員を続けている人の話を聞くと、生きがいになっていると言っている。民生委員としての面白さを経験していくと継続してくれる人も増えるのではないか。そうなると、地区民児協での1, 2期目委員のサポートが重要になってくる。民生委員はいくつか研修を受けるが、民生委員同士のつながりは地区民児協の会議でしかできない。地区民児協と行政が1, 2期目委員のサポートをしていく必要がある。

委員 社会福祉法人には生活困窮や子供のことなど地区の民生委員からの相談がある。市内には社会福祉法人の施設がいくつもあるので、民生委員への協力ができればと思う。介護保険の施設協議会や保育施設の協議会もあるので、協議会をまたいでの連携ができればいい。

所管課長 連携する機会が増えれば民生委員も心強い。

最終的な数字ではないが、退任を希望した69名のうち1期目で退任を希望したのは28名であった。

委員 コロナ前までは知的障害の団体と水富地区、柏原地区それぞれの民児協と交流会を実施していた。今年度は水富地区民児協から声がかかり、3月5日に交流会を実施する予定である。民生委員にとって楽しい活動というのは地域の住民にとってもいいことである。こういった交流会が市内に広がっていくといい。

4 その他 委員より活動団体の紹介があった。

5 閉 会

〈終了〉